



第6図 調和解における振幅の垂直分布

注：A, B, Cの意味は前と同じ。なお、ここで振幅とは  $U_1, V_1; U_2, V_2; U_3, V_3$  の値を示すものである。

い、地形の影響などが主な原因となっているように思われる。機会があれば、これらについても考えて見たい。最後に資料を提供して下さった海陸風観測グループの方に深く謝意を表す。

文献

浅井富雄, 吉門 洋, 1973: 海陸風に関する理論モデルとその問題点, 天気, 20, 119-129.

荒井隆夫, 渡辺次雄, 1960: 天気学, 技報堂全書, 10, 82-84.  
 荒川秀俊, 宇津木政雄, 1937: 海陸風の理論, 気象集誌, 第2輯, 第15巻, 第5号, 189-193.  
 Arakawa, H. and Utsugi, M., 1937: Theoretical investigation on land and sea breezes, Geophys. Mag., Tokyo, 11, 97-104.  
 Defant, F., 1951: Local winds, in Compendium of meteorology, Amer. Meteor. Soc., Boston 655-672.  
 Haurwitz, B., 1947: Comments on the sea breeze circulation, J. Meteor. 4, 1-8.  
 井野英雄, 根山芳雄, 1972: 海陸風の研究, 天気, 19, 299-310.  
 井野英雄, 根山芳晴, 1973: 広島湾の海陸風について, (その1) 海陸風循環特性, 天気, 20, 547-555.  
 川鍋安次, 1967: 海陸風, 神戸海洋気象台彙報, 177 (瀬戸内海の家象と気象, 改訂版), 127-132.  
 岸田和博, 1974: 広島における海陸風循環の経月特性, 天気, 21, 579-586.  
 宮田賢二, 岡本雅典, 1972: 瀬戸内海の家陸風に関する研究 (I), 広島女子大学家政学部記要, 7, 71-88.  
 Okada, T. and Yamada, T., 1928: On the effect of topography on the diurnal variation of wind direction, Geophys. Mag., Tokyo, 1, 105-129.  
 小野英雄, 1934: 神戸における風の日変化, 海と空, 14, 342-349.  
 大阪管区気象台, 1972: 瀬戸内海の家陸風, 大阪管区気象台特別調査報告第2号.  
 Terada, T. and Kobayashi, T., 1922: On the diurnal variation of winds in different coastal stations of Japan, Report of the Aeronautical Research Institute, 1, 35-38.  
 渡辺次雄, 1958: 近代気象調査法, 技報堂全書, 6, 84-85.  
 山本和三, 1974: 広島付近における海陸風の地域特性, 天気, 21, 575-578.

= 関西支部だより =

昭和50年度第4回例会案内

開催日時: 昭和51年1月27日13時-17時  
 開催場所: 神戸海洋気象台, 会議室  
 神戸市生田区中山手通り7丁目

講演題目: 海上気象, 乱流, 測器, 総観気象  
 担当: 舞鶴海洋気象台, 坂根教闊 (近畿理事)